

山形県立

荒砥高等学校同窓会報

令和7年2月28日

発行：山形県立荒砥高等学校同窓会
事務局：県立荒砥高等学校内
〒992-0831 白鷹町荒砥甲 367
電話：0238-85-2171 Fax：0238-85-2823
URL <http://www.arato-h.ed.jp>

第 63 号



2024.11.3 第21回荒砥高校吹奏楽部定期演奏会
Re：start (白鷹町産業センター)



2025.1.30 白鷹町次世代未来ビジョン会議
テーマは「荒砥高生の探究学習を地域につなげよう！」



2024.10.18～19 荒高祭
19日は一般公開が行われ、多くのお客様で賑わいました。

地域の学校です！



2024.7.19 紅花摘み
全校生でボランティア (中山地内)

克己
復禮

同窓生総数
9,428 名

また、20回を超える吹奏楽部の定期演奏会、全校生徒での紅花摘み、一般公開での「荒高祭」など、地域の方々と触れ合う姿がありました。地域と結びついた「荒砥高校」であることを認識していただく機会が多くありました。これらの経験や体験を誇りと自信にしてください。本校で培った実力を遺憾なく発揮し、若々しく、雄々しく、それぞれの分野で成果を上げられるよう期待するものです。ベストを尽くしそれぞれの途に進んでください。洋々たる皆さんの今後のご活躍を祈念いたします。

歓迎のあいさつ

同窓会長 青木 彰榮

ご卒業おめでとうござい
ます。そして、荒砥高等学校同窓会へ
の入会を心から歓迎いたします。

さて、白鷹町においても少子高齢
化、人口減少に加え、高齢化率（総人
口に占める65歳以上の人口の割合）が
40%を超える中であって、卒業生7
名が町内に就職されるということは大
変喜ばしいことです。小規模校でもき
らりと光る学校として存続していき
たいものです。

また、20回を超える吹奏楽部の定期

演奏会、全校生徒での紅花摘み、一般

公開での「荒高祭」など、地域の方々

と触れ合う姿がありました。地域と結

びついた「荒砥高校」であることを認

識していただく機会が多くありまし

た。これらの経験や体験を誇りと自信

にしてください。本校で培った実力を

遺憾なく発揮し、若々しく、雄々しく、

それぞれの分野で成果を上げられるよ

う期待するものです。ベストを尽くし

それぞれの途に進んでください。

洋々たる皆さんの今後のご活躍を祈

念いたします。

荒砥高生の活躍

陸上部	男子	200m	梅津英治	出場
県高校総体	女子	100m	伊藤心結	出場
県高校新人大会	女子	100m・200m	伊藤心結	出場
卓球部	男子シングルス	浅野泰芽・佐竹和也	出場	
県高校総体	女子シングルス	土屋志織	出場	
吹奏楽部				
吹奏楽コンクール山形県大会				銅賞
総合文化部 囲碁班				
全国囲碁選手権大会山形県大会				
女子団体	第一位	安久津春加・吉村真央・村上愛海（県代表）		
女子個人	第二位	安久津春加（県代表）		
	第三位	吉村真央		
全国高総文祭囲碁大会	第三位	村上愛海		
県高総文祭囲碁部門				
女子団体	第一位	吉村真央・村上愛海・佐藤日向・石田彩花（東北大会出場）		
女子個人	総合文化祭賞 第一位	吉村真央		
高文連賞	第二位	村上愛海		
第三位	佐藤日向			
東北高校囲碁選手権				
女子団体	第五位	吉村真央・佐藤日向・石田彩花		出場
総合文化部 美術班				
県高校美術展 努力賞				
油彩画				
井上知寿				
各種コンクールなど				
読書感想画中央コンクール山形県審査会				
入選				
柳谷優衣				
芳賀秀次郎賞 詩				
優秀賞				
井上知寿				

2024.5.3 囲碁県大会

令和6年度卒業生 同窓会評議員名簿

地区名	氏名
白鷹東地区	鈴木秀都
白鷹西地区	新野 葵
長井他地区	井上知寿

荒砥高校の存在は、高等教育機関としての役割はもとより、地域における活力の源のひとつである。ボランティア活動など地域での活動、それらを

あとかき

通した町民との交流、そして、副次的には経済活動やフ



る。荒砥高校の存
続に向けて、町の
厚い支援をいた
き、また、同窓会
後援会、地域が連
携、協力して取り
組んでいかなけれ
ばならないと痛感
する。

同窓会関東支部
の総会に、令和五
年度の卒業生が参
加されたことをお
聞きし、関東支部
の役員に敬意を表
するとともに、繋
がりの大切さを実
感したところであ
る。この取り組み
を継続され、交流
の輪を広げていた
だきたいものだ。

令和六年度卒業
生、それぞれの目
標に向かって邁進
されることを祈念
する。（松野）

令和6年度卒業生進路状況 令和7年2月5日現在

進路先			人数			割合		前年度実績	
			男子	女子	合計	部門毎	全体	人数	全体%
就職	管内	白鷹	4	3	7	77.8%	46.7%	5	23.8%
		長井	2	0	2	22.2%	13.3%	4	19.0%
		飯豊	0	0	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
		管内計	6	3	9	100.0%	60.0%	9	42.9%
	その他県内		0	0	0	0.0%	0.0%	2	9.5%
	県外		0	0	0	0.0%	0.0%	1	4.8%
	公務員		0	0	0	0.0%	0.0%	1	4.8%
就職計			6	3	9	100.0%	60.0%	13	61.9%
進学	大学		1	1	2	40.0%	13.3%	3	14.3%
	短期大学		0	0	0	0.0%	0.0%	1	4.8%
	高専・医技専		0	0	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
	産技短等		0	0	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
	専門学校等		2	1	3	60.0%	20.0%	4	19.0%
進学計			3	2	5	100.0%	33.3%	8	38.1%
その他・未定			0	1	1		6.7%	0	0.0%
卒業者数			9	6	15		100.0%	21	100.0%



「さらに」魅力あふれる荒砥高校に
校長 石田 充

荒砥高等学校同窓会の皆様には、日頃より、本校教育活動に対し温かいご理解とご協力を賜っておりますこと、衷心より感謝申し上げます。

創立76周年を迎えた令和六年度は、新たに24名の新入生を迎え、全校生72名でスタートしました。少人数ながら魅力あふれる学校にしよう、今年も白鷹町をはじめ、地域の皆様、同窓会、後援会や保護者の皆様から多大なるご支援をいただきながら、教育活動の一層の充実を目指し取り組んでまいりました。

日頃の学習は勿論ですが、資格取得、部活動、ボランティア活動など、それぞれの生徒が目標をもって熱心に取り組みました。特に、図書委員による町図書館での子供たちへの絵本の読み聞かせボランティアは、実に23年間継続して実施してきたことが評価され、「令和六年度子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣より表

彰されました。これも、同窓会の皆様方が長年地道に実施してこられたお蔭と心より感謝申し上げます。

学校生活においては、荒高三大行事であるスポーツ祭、荒高祭、クラスマッチが、生徒会を中心に工夫を凝らした結果、大いに盛り上がったイベントとなり大成功を収めました。今年度も保護者や関係者、地域の方等はその様子を参観いただいたところでした。また、1年生の町内産業学習や2年生の就業体験なども町商工会や各事業所の絶大なご協力のもと、各自が将来を見据えたキャリア形成に取り組みました。2年生の修学旅行も、白鷹町のご支援のもと、大阪、奈良、京都を巡り、素晴らしい旅を実現することができました。現在、3年生は進路希望を実現し、高校生活の仕上げに取り組んでいます。このような取り組み等について、同窓会の皆様をはじめとして様々な情報発信をしていただいているお蔭で、

多くの方々より荒砥高校に高い評価をいただいております。令和七年度も生徒一人ひとりが輝く学校を目指すことで魅力あふれる学校となるよう、教職員一同精一杯励んでまいります。同窓会の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、荒砥高等学校同窓会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたします。



2024.6.13 スポーツ祭
全校生徒でソーラン節を踊る

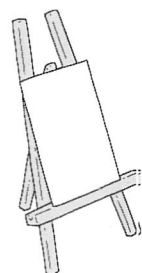
馬場 真結子
私にとって荒砥高校ですごした三年間はとてもかけがえない宝物でした。クラスメイトと過ごした日々、生徒会で夜遅くまで残った思い出、技術面でも精神面でも鍛えられた部活動、みんなで作り上げた学校行事、すべての思い出が心に残っています。その中でも特に、吹奏楽部で過ごした日々は、私を大きく成

寄稿 卒業生から

井上 知寿

私は人と関わるのが苦手なことに加え、同じ中学校から進学した同級生がいなかったため、初めの頃はひたすら心配ばかり考えていました。しかし蓋を開けてみれば気さくで話しやすい先生方や先輩や優しく接してくれる同級生たち。不安はすぐさま嘘のように消え去り、この三年間で荒砥高校は思い出されるかけがえない場所へと変わりました。また、意欲的に関わりを持つことで人との繋が

り方を学び、自信を持つことができたおかげで、生徒会副会長や美術部長などの役職に挑戦することができました。関わりを持つて支えてくださった方々には感謝しきれません。私は4月から専門学校での生活が始まります。荒砥高校で得た知識や経験、挑戦する勇気を発揮し、これからも成長していきたいです。



かけがえのない生徒達との出会い

青木 陽子
(元教職員)

私は昭和四八年から五年間、荒砥高校に勤務し教師人生初の卒業生を送り出し、個性的な生徒達との出会いから、その後は人生の仲間として今日に到っています。

自然豊かな白鷹の地で育った生徒達は素直で、若い未熟者教師に、面と向かって批判をぶつけてくることもなく、我慢してくれたのかもしれないが、思いやり深い生徒達であった。それぞれが豊かな個性や良さ、弱点も持ち、また若いエネルギーにあふれ時には危なっかしい行動もあったが、一人一人がかけがえのない愛すべき生徒達でした。

生徒達は学級新聞や卒業文集を発行したり、軽井沢キャンプを実施したりと、その自主性、創造力、行動力には目を見張りました。卒業文集「夢来館」はM君が描いたメッセージ性のある表紙を捲ると四部構成でテーマ別あり、He said You saidのページあり、編集後記には「誰かひとりが欠けても



昭和55年3月31日に竣工なった現在の校舎
(写真は令和5年4月8日 入学式に撮影)



しながらの英語発信にクラスは大爆笑。還暦授業を盛り上げてくれたのである。いつもクラスには助け人がいる。

卒業生の歩みは様々だが順風満帆に進んだ者などいない。さまざまな葛藤、苦悩や困難があり、それを時には独力で乗り越え、今日がある者が多い。在校生の皆さん、すばらしい先輩・人材を輩出している荒砥高です。先輩の生き方にも学び一層のご活躍を祈ります。

恩師と友との永遠の絆

五十嵐 雄二(昭和51年度卒業)

「キーン・コーン・カッ・ン・コーン」廊下に響くチャイム、「起立、礼、着席!」、これは41年振りに行われた還暦同級会での補習授業の始まり。一校時は先生が旧姓で出欠をとり、生徒各自による三分間スピーチのホームルーム、二校時は「Congratulations on your 60th Birthday!」と題しての英語の補習授業、現役当時と変わらぬ恩師青木先生の流暢なEnglishが私たちの心に響く。

あれから六年が経ち、昨年十一月に初めての赤湯温泉に宿泊での第五回同級会を開催。先生の傘寿を祝った後は深夜一時まで思い出話と近況報告に話は尽きず、別れを惜しみつつもLINE Groupを繋ぎ、恩師と高齢者の仲間入りとなった友との元気に再会を誓い合いました。何より、これまで毎回青木先生には快く参加いただいていることに感謝しております。

高校生時代を振り返れば、学び舎は温もりのある

木造校舎、一学年普通科三クラス(二クラス45名)に定時制一クラス、靴は手提げ靴、靴は下駄もOK、授業は文系、理系問わず、日本史、世界史、生物、化学、数学は数Ⅲまで、更にそろばんの商業までと、今思えばよくあれだけの科目を勉強したものだと思いつつ、数学テストで0点とれば先生がラーメンをおごると言っている、それが実現。S先生の女子体育で逆上がりができる女子生徒の涙の苦悩のあれこれ...情熱あふれる授業ばかりでした。進路は国立大学、有名私立大学、国家公務員、地方公務員、企業就職とそれぞれの道に進みま

少子化を背景に厳しい学校運営が続いていることと思いますが、在校生には、共に学び活動した輝かしい青春時代の友との「絆」をいつまでも大切にして、人生の糧としてくれることを願っております。

